

制作：宇都宮市大谷石文化推進協議会

東武鉄道は昭和 6 年の東武宇都宮線開通に先立ち、宇都宮石材軌道（株）を合併し、東武宇都宮線西川田駅に宇都宮石材軌道の鉄道線を接続させ、大谷石輸送に乗り出すことになります。東武宇都宮線開通から 1 年後に建築された南宇都宮駅舎に大谷石が利用された背景には、この駅舎を広告塔とし、大谷石の魅力をアピールする目的があったと考えられます。

さらに、宇都宮から遠く離れた東京都板橋区のとときわ台駅でも大谷石張りの駅舎が建築されるなど、東武鉄道と大谷石文化には浅からぬ関係があります。



南宇都宮駅舎（2020 年改修）

南宇都宮駅（日本遺産構成文化財）

南宇都宮駅は 1932（昭和 7）年に臨時駅「野球場前」として開業しました。駅舎は、大谷石の「横張り腰壁」「縦張り袖壁」を組み合わせ、この地域の固有なデザインとなっています。

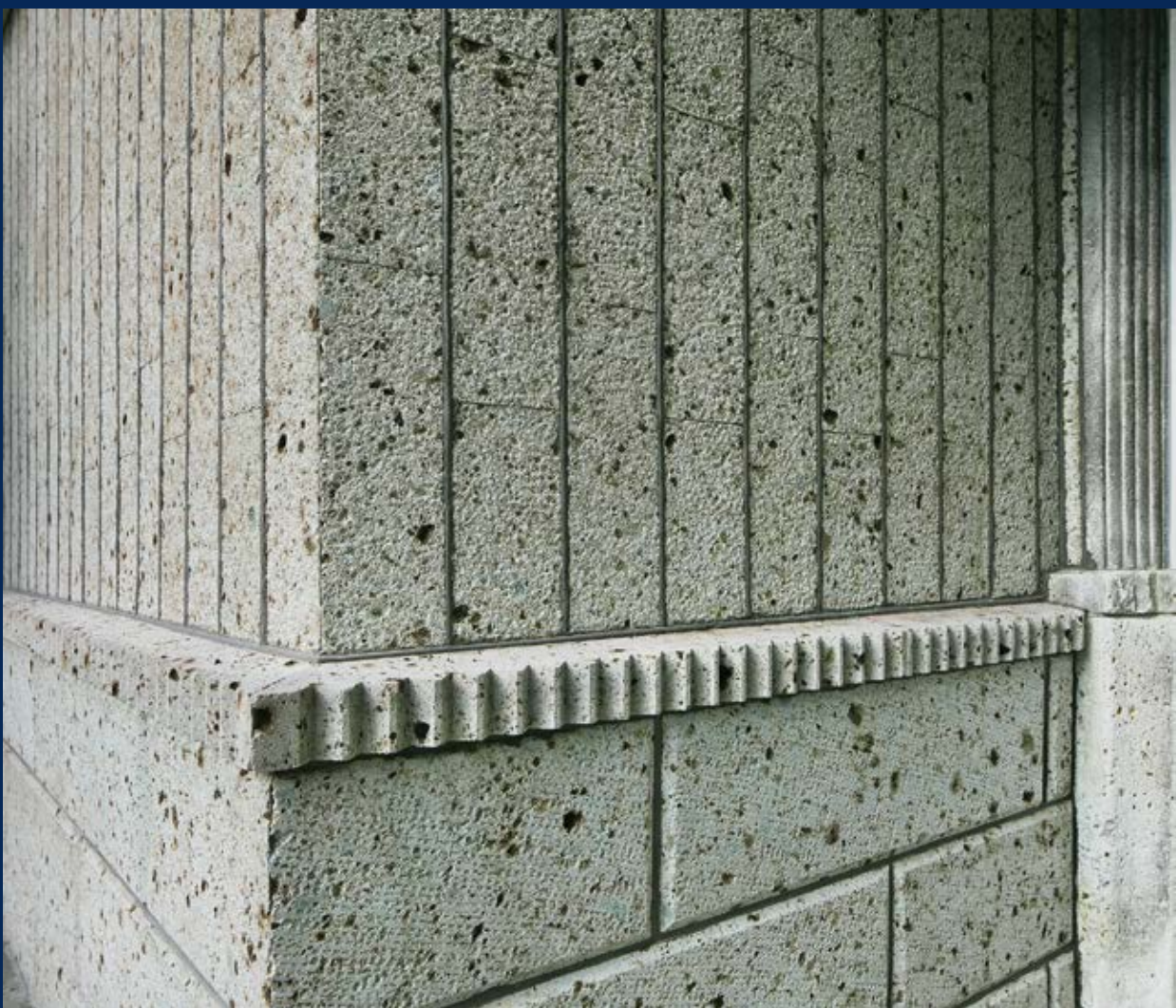
2020 年（令和 2 年）の改修工事では、開業当時のデザインや色合いを可能な限り保存・復原しています。



昭和 51 年 3 月頃の南宇都宮駅舎（東武博物館所蔵）



大谷石外壁（開業当初の保存部）



大谷石外壁（2020 年新設部）



開業当初のデザインに復原した待合室



特徴的なデザインの破風板



南宇都宮駅立面図（大谷石部分着色）



大谷石新設・交換箇所
大谷石補修箇所

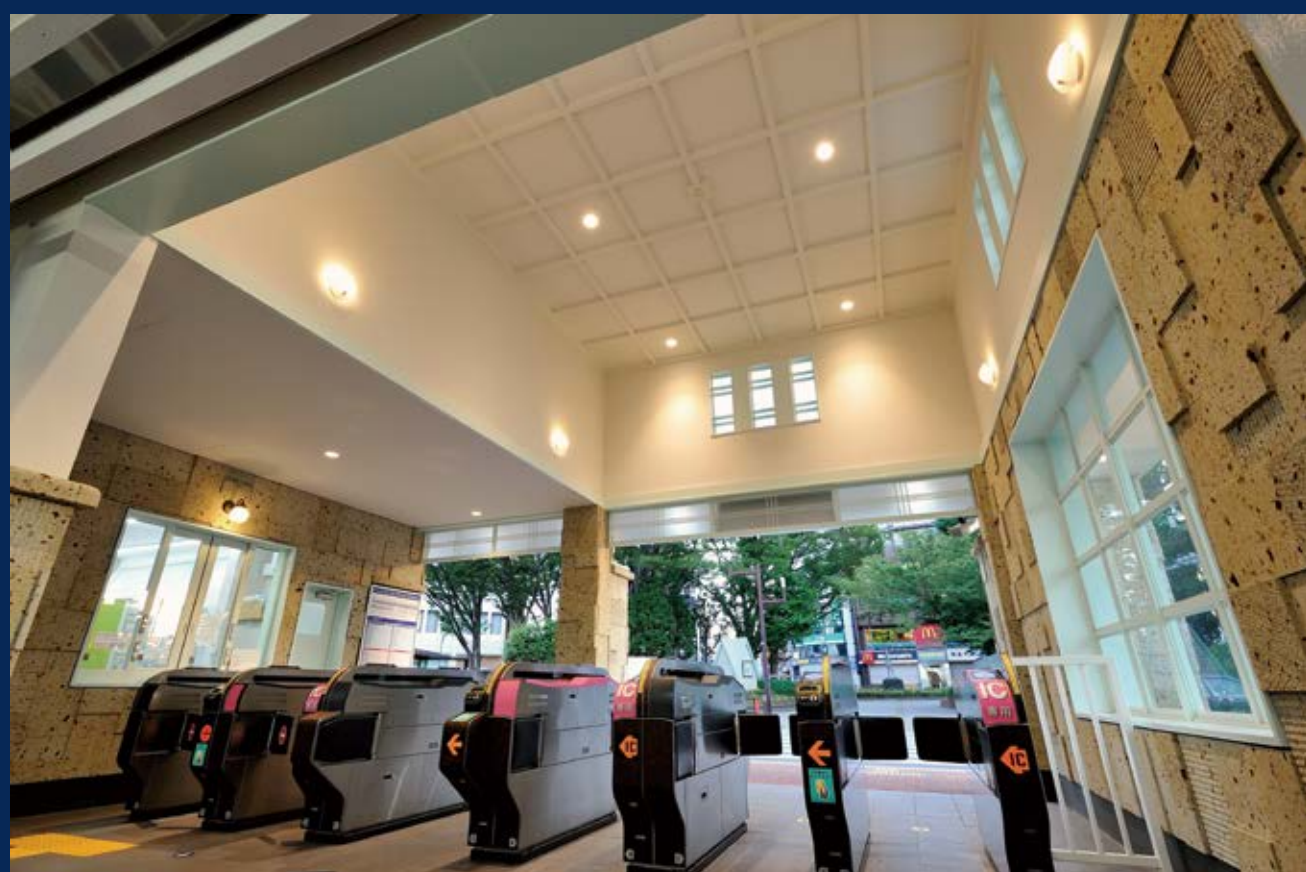
ときわ台駅（東京都板橋区）

南宇都宮駅開業から 3 年後の 1935（昭和 10）年にときわ台駅は開業しました。一見すると見間違えてしまうほど、南宇都宮駅に酷似しているときわ台駅ですが、大谷石は幾何学模様配されたパターン張りとなっています。

こちらは南宇都宮駅に先立ち、2018（平成 31）年に改修工事を実施し、南宇都宮駅と同じく、開業当時のデザインや色合いを可能な限り復原しています。



大谷石外壁（開業当初の保存部）



大谷石を使用した駅舎内部



ときわ台駅舎（2018 年改修）